

KNOCK-DOWN OAR

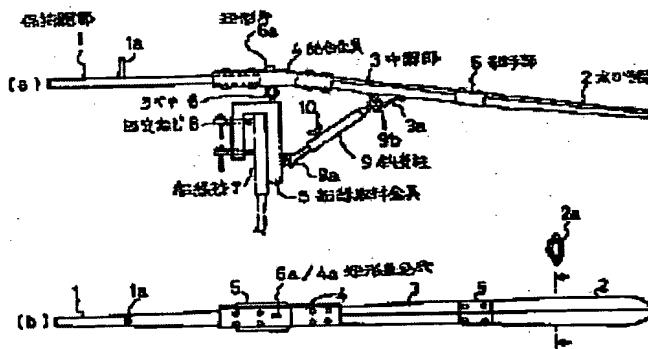
Patent number: JP7052883
Publication date: 1995-02-28
Inventor: TONOUCHI KOJI
Applicant: TONOUCHI KOJI
Classification:
 - international: B63H16/04; B63H16/00; (IPC1-7): B63H16/04
 - european:
Application number: JP19930198247 19930810
Priority number(s): JP19930198247 19930810

Report a data error here

Abstract of JP7052883

PURPOSE: To provide an oar structure for a Japanese-style ship where its oar main body is easy to handle/transport, its mounting position to the ship can be freely set, can keep its web section at its tip end roughly constant in the depth of water, and the oar main body hardly comes out of a rowing center section.

CONSTITUTION: An oar main body composed of a hold arm section 1, an intermediate section 3, and of a web section 2 is so constituted that it can be disassembled/reassembled in the groups of the sections 1 and 3 and the sections 3 and 2 respectively by means of a joining fitting 4 and a joint section 5, and the rectangular piece 6a of a rowing center section 6 is concurrently so constituted that it can be inserted into a rectangular insertion hole 4a provided for the top section of a hull edge mounting fitting 5 for fixedly holding a hull edge member 7, besides, an oblique strut capable of being adjusted in length is interposed between the outside of the hull edge mounting fitting 5 and the intermediate section 3.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-52883

(43) 公開日 平成7年(1995)2月28日

(51) Int.Cl.⁶
B 63 H 16/04

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数1 OL (全3頁)

(21) 出願番号 特願平5-198247

(71) 出願人 591056215

殿内 幸二

(22) 出願日 平成5年(1993)8月10日

神奈川県横浜市西区浅間町5-376-1

(72) 発明者 殿内 幸二

神奈川県横浜市西区浅間町5-376-1

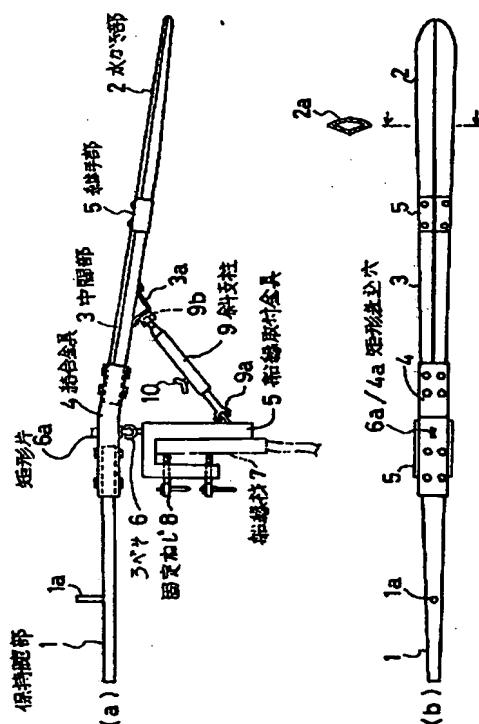
(74) 代理人 弁理士 丹羽 宏之 (外1名)

(54) 【発明の名称】 組立式櫓

(57) 【要約】

【目的】 櫓本体の取扱/運搬が容易で、船に対する取付け位置が自由、かつ櫓先の水かき部の水深レベルがほぼ一定に維持され、ろべそ部から容易に脱落することができない和船用の櫓構造を提供する。

【構成】 このため、保持腕部1、中間部3及び水かき部2より成る櫓本体の、前記1, 3部及び3, 2部をそれぞれ結合金具4及び継手部5により分解/組立可能に構成すると共に、船縁材7を挟持固定するための船縁取付金具5の頂部にろべそ部6の矩形片6aを結合金具4の矩形差込穴4aに差込可能に構成し、かつ船縁取付金具5外側と中間部3の下面間に長さ調節可能な斜支柱9を設けた。



TECHNICAL
AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 保持腕部、中間部及び水かき部とより成る櫓本体の、前記保持腕部と中間部とを結合金具を介し、また前記中間部と水かき部とをそれぞれの端部の継手部を介してそれぞれ分解可能に結合すると共に、船縁材を挟持固定するための船縁取付金具の頂部に配設した所定の立体角度範囲内を自在に枢動可能な支持手段部材の先端部を前記結合金具のほぼ中央部に垂直に挿通可能に構成し、さらにこの船縁取付金具及び前記中間部との間に長さ調節可能な斜支柱を設けるよう構成することにより、前記目的を達成しようとするものである。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は、和船を漕ぐため櫓(ろ)の改良に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 和船の後部に装備して漕ぎ手の人力により船を推進させるための用具としてのこの種の櫓は、古来から広く使用されている。周知のように、漕ぎ手が握って押す部分(“腕”)と、水中にあって水をかく部分(“脚”または“羽”)とが一体の木材より成り、この脚部の上方下面に凹設された艤臘(ろべそ)を船の艤床(よしゆ)上に突設された艤杭(よしよし)に嵌め、腕には舷に結びつけた早緒(はやお)をかけ、腕を前後に操って船を前進させるものであった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、以上のような古来形式の櫓にあっては、櫓のへそ部を艤床上の球状突起部に上から櫓の自重により嵌合支持しただけの姿勢で、揺動を伴う腕部の往復運動による“漕ぎ”操作を繰返すよう構成されており、また腕先端の羽部を水中の適当な深度に常に一定に維保する必要があるため、その操作には可成りの力と技術(熟練)が必要であり、またその技術が不足であると前記へそ部の嵌合支持部が簡単に外れて櫓体が艤床上へ落下してしまい、一時的に漕ぎ動作が中断されると共に、その都度、比較的自重の大きな櫓自体を持上げて嵌合し直すことが必要であった。

【0004】 また、櫓の構造は、一般的に強度や腐蝕性が大きい比較的の比重の大きい木材により一体式に作られているため、重量が大きく取付け/取外しに不便であり、また取付場所が既設の艤杭位置に限定されていた。

【0005】 この発明は、以上のような従来例の問題点にかんがみてなされたもので、櫓本体が組立式でその取扱いが容易かつ船に対する取付け位置が自由であり、また漕ぎ操作が容易で、水かき部の深度維持等の技術が不要でへそ部の嵌合が容易に外れることのないこの種の櫓構造の提供を目的としている。

【0006】

【課題を解決するための手段】 このため、この発明においては、保持腕部、中間部及び水かき部とより成る櫓本

体の、前記保持腕部と中間部とを結合金具を介し、また前記中間部と水かき部とをそれぞれの端部の継手部を介してそれぞれ分解可能に結合すると共に、船縁材を挟持固定するための船縁取付金具の頂部に配設した所定の立体角度範囲内を自在に枢動可能な支持手段部材の先端部を前記結合金具のほぼ中央部に垂直に挿通可能に構成し、さらにこの船縁取付金具及び前記中間部との間に長さ調節可能な斜支柱を設けるよう構成することにより、前記目的を達成しようとするものである。

【0007】

【作用】 以上のようなこの発明に係る組立式櫓構造によれば、簡単な分解/組立によって取扱いや運搬も容易となり、船の取付け位置も自由に設定することができ、枢動支持部からも容易に外れることがない。また、水かき部の深度を一定に保つ斜支柱により、初心者でも熟練を要することなく漕ぐことができる。

【0008】

【実施例】 以下にこの発明を実施例に基づいて説明する。図1(a), (b)にこの発明に係る組立式櫓の一実施例の側面図及び上面図を示す。

【0009】 この櫓の本体は、漕ぎ手が握って漕ぎ動作を行う保持腕部1及び櫓先の水かき部2及び、両者1, 2の中間部3とより成り、保持腕部1及び中間部3は両端部にそれぞれの端部の挿入空断を有する鋼板構造の結合金具4により、また、両者2, 3間はそれぞれの端部の継手部5により互にボルト結合されている。

【0010】 保持腕部1は、例えば木製で、中間の上面には手掛け1aが立設されている。水かき部2は、櫻断面2aを有する中空の鋼板溶接構造で、中間部3の断面/構造もこれに準ずる。なお、この水かき部2及び中間部3は継手部5を省略して両者を連続する一体構造としても差支えない。

【0011】 結合金具4は、ほぼ中心部には、上下に貫通する矩形差込穴4aが穿設され、後述する船縁取付金具5の上部に立設されたろべそ6の矩形片6aに差込んでこの櫓を取付ける。

【0012】 船縁取付金具5は、鋼板または山形鋼溶接構造相互に対面して船縁材(櫻床材)7を挟持固定するための一対の垂直平面部材と、その両部材の頂部を互に結合する水平平面部材とより成り、前記一対の垂直平面部材の直上の水平平面部材頂部には、前記矩形片6aの先端部に形成された球状部を周囲から包囲拘束して脱落不能に所定の立体角範囲内に相互に枢動し得るよう構成したろべそ6が突設固定されている。また、前記一対の他側の垂直平面部材には、上下に一対の手廻し固定ねじ8が設けられ、挟持した船縁材7に締付け固定することができる。

【0013】 また、この船縁取付金具5と櫓の中間部3間には、長さ調節式の斜支柱9が、船外側の垂直平面部材の外側下部に固設された耳金具と、櫓の中間部3の下

面に固設されたボール受け金具3aとの間に、それぞれ両端の2又金具9a及びボール部9bを介して取付けられ、パイプとロッド式に摺動可能な斜支柱9の長さを、蝶ボルト10により適当に設定／固定することにより、水かき部2の適当な水深をほぼ一定に維持することができるよう構成されている。

【0014】(他の実施例)なお、前記実施例における各部の材料及び細部構成等は前記図例のみに限定されるものでなく、種々の変形であっても差支えないことはもちろんである。

【0015】

【発明の効果】以上説明したように、この発明によれば、和船用の櫓を、各軽量の複数部材で分解／組立可能に構成して、船縁の所望位置に据付け固定し得ると共に、ろべそ部からは容易に外れ難くかつ常に櫓先の水かき部が適当な水深レベルに保たれるため、取扱い／運搬

が容易で熟練の不要なこの種の櫓が得られた。

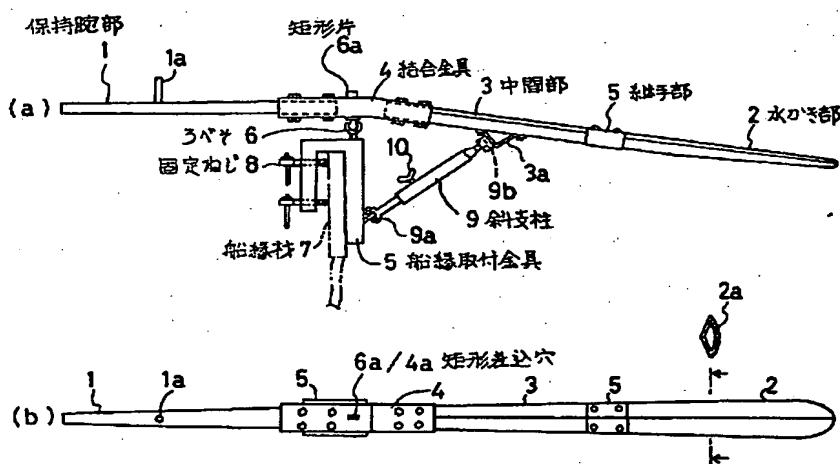
【図面の簡単な説明】

【図1】一実施例の側面図及び上面図

【符号の説明】

1	保持腕部
2	水かき部
3	中間部
4	結合金具
4a	矩形差込穴
10	船縁取付金具
6	ろべそ
6a	矩形片
7	船縁材
8	固定ねじ
9	斜支柱

【図1】



BEST AVAILABLE COPY